

日照不足・長雨に対する農作物等管理技術対策について

令和 8 年 9 月 9 日
埼玉県農林部

熊谷気象台の観測データによると、今年の 8 月 15 日～9 月 8 日までの日照時間の合計は 76.6 時間であり、平年値 123.3 時間の約 6 割ほどの日照時間となっています。

また、気象庁の 1 週間天気予報（9 月 9 日発表）では、向こう 1 週間も曇りや雨の日が多い予想です。

つきましては、農作物の管理技術対策資料を以下の通り作成しましたので、参考としてください。

水 稲

- 1 落水は出穂 30 日経過してから実施する。
- 2 収穫期に近い場合は、速やかに排水できるよう暗きよの栓や水尻を開け、滞水している場合は溝切りを行うなどして、天候の回復後すぐに作業が実施できるよう準備する。
- 3 週間天気予報等を参考に、早目に刈取りを始めるなど極力刈遅れしないよう計画的に作業を行う。
- 4 倒伏や穂発芽が懸念される場合は、優先して収穫する。すでに倒伏あるいは穂発芽の見られる場合は、刈分けを行い品質の低下を防ぐ。
- 5 高水分粳を含む水稻を収穫した場合は、乾燥機に張り込み後、半日から 1 日は通風乾燥を行い、粳水分を均してから火力乾燥を行う。火力乾燥時には乾減率が 1 %を超えないようゆっくりと乾燥させる。

大 豆

- 1 多湿になるとべと病、紫斑病、茎葉が軟弱になると葉焼病等の病害の発生が助長されるため、必要に応じて防除する。
- 2 降雨による滞水を防ぎ、ほ場の乾燥を速めるために、暗きよの開放や排水路の点検、再整備を行う。

野 菜

◎野菜共通

- 1 曇雨天時の摘葉や芽かきは、病害の発生を助長するため極力避ける。
- 2 果菜類では樹勢を維持し生理的落果や病虫害の発生を予防するため、天候を勘案しながら老化葉は除去する。
- 3 天候やほ場の状態を勘案しながら、病虫害の薬剤防除を行う。
- 4 追肥は1度に多量に行わず、生育状況を観察しながら数回に分けて適量を施用する。
- 5 降雨による滞水を防ぎ、ほ場の乾燥を速めるために、排水路の点検、再整備を行う。

◎露地なす

- 1 日照不足により果実肥大が遅れ、着色不良も生じているため、受光条件が良好となるよう整枝・誘引、摘葉管理を適切に行う。また、形状不良果や病果を早めに摘果するなど草勢維持と品質確保に努める。
- 2 茎葉の繁茂やなり疲れにより、うどんこ病の発生が懸念されるので、薬剤による早期防除に努める。
- 3 褐色腐敗病などの発生が懸念されるため、早期に病果の摘除を行うとともに、適切な薬剤防除を行う。

◎いちご

- 1 日照不足や遮光資材の撤去の遅れにより軟弱な生育をしている苗が多いため、病害の発生に注意し、早期発見、早期防除に努める。
- 2 外張りの遮光資材を撤去し光線量を確保することで、苗の順化を促すとともに土壤水分を適正に管理して過湿を避け、根痛みや徒長を抑制する。
- 3 日平均気温は平年並もしくは低めに推移しているため、花芽分化の確認を行い適期定植に努める。定植が遅れる場合は、肥料切れとならないように肥培管理を行い心止まりの発生に留意する。
- 4 育苗後半に病虫害が発生した場合は、本ぼに持ち込まないよう健苗の選別と徹底防除に努める。

◎抑制きゅうり

- 1 8月下旬定植の株は日照不足により活着時の根張りが悪く、軟弱徒長気味の生育となることが懸念されるため、施設の換気や循環扇を利用し、適切な温湿度を確保するとともに、少量かん水で適度な土壌水分管理を行い、根の活性を高める。
- 2 天候回復時の急激な高温・強日射によりしおれや葉焼けを生じやすくなるため、適宜遮光資材の利用や葉水を行い、急激な蒸散を抑制する。
- 3 うどんこ病、べと病、褐斑病等が発生しやすいため、ハウス内の通風確保と換気に努め、早期発見と予防散布を行う。

◎トマト

- 1 育苗中の場合は軟弱徒長させないように、かん水量の調整、遮光の開閉、通風の確保に留意する
- 2 すでに本ばに定植している場合は、天候に応じたかん水を行い、軟弱徒長を防ぐ。
- 3 適切な換気と循環扇の利用で、ハウス内の空気を循環させ、病害発生を抑制するとともに、早期発見に努め薬剤防除を行う。

◎ねぎ

- 1 断続的な降雨の影響で湿害や根いたみによる生育不良、軟腐病、白絹病及び黒斑病の発生がみられるため、定期的な薬剤散布を行う。
- 2 湿害や軟弱徒長の防止のため、ほ場周囲に明きょを設置するなど、過湿にならないよう排水対策を行う。

◎ブロッコリー、キャベツ

- 1 定植済みの場合は、ほ場が乾き次第早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 2 育苗中の場合は、不必要なかん水を避け、苗床やセルトレイ内の土壌を適湿に維持して根の発達を促進する。
- 3 また、天候回復後の急な高温・強日射によりしおれや葉焼けを生じやすくなるため、遮光資材の利用や葉水を行い急激な蒸散を抑制する。
- 3 多湿によりべと病・黒腐病・黒すす病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

◎こまつな・ほうれんそう等の軟弱野菜

- 1 日照不足により、葉色が淡く軟弱な生育となり、日持ち性も低下しやすいため、防虫ネット等で被覆しているものは、通風を図るとともに、収穫5～6日前に被覆資材を除去し光線を当てて、収穫後は速やかに予冷するなど品質保持に努める。
- 2 こまつなやみずなでは白さび病の発生が懸念されるので、ハウスやトンネルの通風を良好にするとともに、発生前から薬剤防除を行う。

果 樹

◎共通

- 1 滞水しやすいほ場では、溝を掘るなど排水対策を講じる。

◎ぶどう

- 1 収穫前に糖度や酸抜けの程度を食味調査し、適切な品質になってから収穫を開始する。

花植木

- 1 日照不足により軟弱徒長で生育し、病害虫が発生しやすい環境にあるため必要に応じて薬剤防除を行い、病害虫の発生・蔓延を防止する。
- 2 施設栽培では過湿により灰色かび病等の病害の発生が助長されるので、循環扇等利用し、雨天でも換気を行うとともに、施設周囲に排水溝を設置し排水対策も行う。また、急な晴天時には適切な遮光管理を行い、葉焼けを防止する。

茶

- 1 降雨による湿度上昇等により炭疽病が発生しやすくなるため、炭疽病に弱い「さやまかおり」や炭疽病が常発するほ場を中心に薬剤防除を行う。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

- ・ 農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>